vol. 24
2023 autumn

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋

人にまっすぐ。
大阪教育大学

01 教師にまっすぐを開催
02 リレーエッセイ
03 加盟校出身学生の紹介
04 交流事業の紹介
06 加盟校の取組紹介
07 大教大トピックス／編集後記

第３回教師にまっすぐを柏原キャンパスで開催

第３回教師にまっすぐ（校長講話）を、８月19日（土）に柏原キャンパスで開催しました。

RELAY ESSAY
リレーエッセイ

これまでを決めるのは、これからだ!!

大阪府立桜和高等学校　校長　川口　伊佐夫

高校に入学したのは、今のように各校にホームページがあり、学校説明会が頻繁に行われていた時代ではなく、中学校3年生の担任の先生と本人、保護者の三者懇談で、主に成績と担任の先生の判断によるところが多かったような時代でした。もちろん、本人の希望も聞いてくださるのですが、やはりこれまでの中学校卒業生の実績や評判が大きな判断材料でもあったように思います。私もそのような流れの中で、高校野球にあこがれ、当時は各県の甲子園出場校には商業高校が多かったことで、自分自身の希望として、商業高校を掲げ、両親の普通科高校への勧めを押し切り、商業高校へ進学を決めました。

入学後、男子生徒の少なさや、硬式野球部の部員数の少なさに唖然とし、大きな後悔が自分自身の胸をいっぱいにしたことを覚えています。また、何故、この環境を教えてくれなかったのかと、担任の先生を恨んだのも事実です。しかし、両親の反対を押し切って入学したこともあり、その現状を受け入れざるを得なかったことと、今のように転学が選択肢としてあったわけでもなく、とにかく頑張るしかないと半ばあきらめに近い心境でした。

高校生活が始まり、学業はそこそこに、部活動が学校生活の中心であったことは言うまでもなく、また、学校自体が商業高校でもあったことで、当時卒業後はほぼ全員と言っていいくらい公務員をはじめ、就職という進路を選択する中で、学校の方針として、部活動に参加している、参加していないに関わらず、学校行事において、上下関係をしっかりと学び、体験し、各種検定試験において、資格をできるだけたくさん持つよう指導されていました。

そこで、私の人生の師と仰ぐことができる先生との出会いがあったのです。その先生のもとで、生徒会長や文化祭実行委員長として、学校自治というこれまで自分自身が経験したことのないようなことを、教わり、今では考えられないような時間を共有していただき、育てていただきました。このことで、部活動一色だった高校生活が一変し、とにかく学校が大好きになり、自分の学校という自覚が芽生え、多くの場面で、多くのことにチャレンジできるようにもなりました。

高校3年生になり、多くの職種の大企業から沢山の求人をいただき、まさに「選び放題」状態の中、これまた進路指導部の先生、担任の先生の勧めで就職の道を選択したのですが、心のどこかにこれでいいのかと自問自答する場面が多くあったのも事実です。また、何故かこの頃から私が幼稚園児だった頃に「大きくなったら体育の先生になる。」と話していたことを思い出すようになっていました。そんなちょっと複雑な思いを抱きながら、就職しましたが、やはり長い人生を考えたときに本心は「体育の先生」ではなかったのかと毎日、自分に問いかける日々が続きました。が、現実問題として、現状から、進路変更することは容易ではなく、両親の期待を裏切り、会社や高校に多大な迷惑をかける、また何より、浪人生活に耐え、大学受験で合格できるのかということを考えると、簡単には決断行動することはできませんでした。しかし、その思いは日が経つにつれ、大きく強くなる一方で、ついに決断し、退社して、浪人という形で大学受験をめざすことになりました。

今思えば、本当に安易な選択を繰り返し、両親や高校、会社にはとても多くの迷惑をお掛けしたのですが、その間違った選択があったからこそ、その後、目標に向かって頑張ることができたのだろうし、今こうして、皆さんに私の失敗談として、お伝え出来、同じような失敗をしてもらいたくないと思えるのかなとも思います。私が歩んできたこれまでの過去は、これから先もいい人生だったといえるような過去にするために、頑張り続けようと思います。「これまでを決めるのは、これからだ!!」を肝に銘じて。

川口　伊佐夫　かわぐち　いさお
大阪府立桜和高等学校
校長

STUDENTS' VOICE

加盟校出身学生の紹介

Intro duction

坂井（さかい）　美波（みなみ） さん

教育協働学科 グローバル教育専攻・多文化リテラシーコース３回生
和泉高校　令和３年３月卒業

高校時代の思い出は

クラブ活動、体育大会や文化祭、修学旅行など様々な楽しい思い出がありますが、やはり今となっては普段の何気ない日常が印象深く感じます。友人と帰り道にマクドナルドに寄ってただひたすらに話したり、テスト期間に集まって勉強合宿をしたり、学校近くのショッピングモールで一緒に買い物をしたり、何をしても楽しかったですね。今でも高校時代の友人と会って遊ぶことがあるのですが、その度にあの頃の思い出が鮮明によみがえります。

なぜ所属する専攻・学科・コースをめざしたのか？ または将来の目標

私が所属しているコースは、教育学に留まらず、文学、歴史学、経済学、哲学、芸術学……とにかく様々な幅広い学問に取り組めるんです！ それがとても魅力的に感じて本コースをめざしました！ 将来は、学校の教室で子どもたちが夢中になるような本（コンテンツ）を創って届けられるような人間になります！

専攻の良いところ

「何事もグローバル規模で学べるところ」が先進的で良いですね！ 私が所属しているコースは留学生が多く、日頃から様々な文化や考えに触れる機会があります。「日本」という枠で収まらず、思考できるようになるのは本コースの魅力だと日々感じています。

クラブ・サークルは何をやっていますか？
または大学生活で頑張っていること、楽しいこと

課外活動で「学生広報団体 DAIKYO PRESS」に所属しています。年に1度フリーペーパーを発行したり、大学の紹介動画を制作したり、写真コンテストやモデルオーディションを企画運営したり、とにかく「自分たちがやってみたい！」と思ったことをやっています！ 他のクラブ・サークルとコラボ企画を行ったり、普段は中々お話する機会の無い方にインタビューをさせていただけたり、とにかく様々な経験ができて楽しいです！ メンバーで話し合い、ゼロからアイディアを考えて形にしていく喜びと達成感を感じます！

おすすめの受験勉強法

自分が「これだ！」と思う参考書を1教科につき1冊、極めることをおすすめします。受験期になると、学校や塾で沢山の教材が配られますよね。そんな中、私は学校の参考書で勉強しても、いまいち頭に入ってこないなと思うことがありました。そこで、書店に行って自分で良いと思った参考書を買って、その1冊を極めました。すると、模試で苦手な分野を克服することが出来ました。これは勉強以外にも言えますが、「自分に合っている方法」で取り組むことが成長の鍵だと思います。是非「自分に合う」1冊と出会い、極めてみてください。

大教大の良いところ

充実した学習環境や国際交流事業など様々な魅力的な点がありますが、やはり「景色の良さ」は自然豊かな大教大唯一無二の良いところだと思います。キャンパス内の豊かな木々からは四季の移ろいを感じられて、心身ともにリラックスできます。また、エスカレーター付近に住んでいる猫が、日々通学する学生を癒やしてくれるのも大教大の魅力の一つです。

大学生活を有意義に過ごすには

自分から積極的に物事に取り組む姿勢が大切だと思います。「大学生は自由な時間が多い」とよく耳にしますが、実際にそうだと思います。「自由」って良いですよね。しかし、言い換えるとそれは「自分次第」ということでもあります。受け身のスタンスでいると時間だけがあっという間に過ぎていきます。そのため、学業・クラブ・サークル・課外活動・趣味・バイト、なんでも良いので自分がほんのちょっとでもやりたいと思ったことには貪欲に取り組む姿勢が、大学生活を過ごす上で大切だと思います！

赤坂（あかさか）　聡月（とづき） さん

教育協働学科 グローバル教育専攻・多文化リテラシーコース ２回生
住吉高校　令和４年３月卒業

高校時代の思い出は

所属していた男子バスケットボール部の思い出です。バスケ経験のある監督は在籍しておらず、自分たちでメニューを考えて練習していました。人に何かを教えるということについて楽しいなと感じるようになったきっかけは、後輩ができてバスケットボールの技術・戦略等を教えるということが始まりなのかと思っています。

なぜ所属する専攻・学科・コースをめざしたのか？ または将来の目標

将来、海外で仕事をしたいと思い、めざしました。受験期に、大阪教育大学にはグローバル教育専攻があることを知りました。日本語を用いて多角的な視点を養うという多文化リテラシーコースのカリキュラムに魅力を感じ、受験することを決めました。教員免許の取得もできるというメリットがあるので、海外での活躍を見据えて力をつけていくということと、教員免許の取得を2大目標に大学生活を送っています。

専攻の良いところ

自由さだと思います。教育協働学科なので免許の取得が卒業資格に含まれていませんし、課題も少ない方だと思います。やることが少ない分、自分が興味のあることに取り組むことが可能です。教員免許を取る、日本語教師の資格を取るためや外国にルーツのある子どもへの教育を学ぶために副専攻プログラムを受講する、もちろんアルバイトやサークル等も含め、充実した大学生活を送っています。

クラブ・サークルは何をやっていますか？
または大学生活で頑張っていること、楽しいこと

今取り組んでいることは大阪教育大学学生プロデュースです。学生発案の企画を、大学からの支援を受けて実行できるというものです。現在、「席ゆずりますマーク拡散プロジェクト～言えないどーぞの一歩目に～」という名前で活動をしています。気になる人はぜひ Instagram などで調べてみてください。自分で活動を行うことは学ぶもの、得るものがとても多く、人として成長できると思います。思い立ったら即行動！ はとても大事だと感じています。

おすすめの受験勉強法

おすすめする勉強法は6：1勉強法です。勉強：休憩が6：1になるようにするというものです。勉強60分で休憩10分、6時間勉強したら1時間休憩する、週に6日は勉強日、1日は休憩日にすると、モチベーションが保ちやすかったと思います。丸1日休むと「なんでできないんだよ」、「無駄にした」などと思ってしまいますが、この勉強法では何をしても良い日、いわゆるチートデイを設定するので、失敗感が減ります。自己肯定がとても大事なので、ラフに取り組むことと、ライバルの勉強時間を気にしないことが大切です。

大教大の良いところ

山の上にあるところだと思います。駅から学校への道は長い坂になっているので、学生たちは「登山」と呼んでいます。この点は大変です。夏は暑いし、雨の日は水が流れ落ちてくるし、霧がかかって校舎が見えないなんてこともあります。しかし、都会の車や電車などの騒音とは無縁です。鶯が鳴いたり逆にセミは静かだったり、ヒグラシが鳴いていたことなんかもあります。のんびり過ごすにも勉強に集中するにも良い環境だと思います。

大学生活を有意義に過ごすには

とにかくやりたいことをやることだと思います。大学生は自由に使える時間が多いです。ぜひ、その時間にやりたいことをやりましょう！ 私の19歳の個人目標は「行動力」でした。今まで、理由を付けてやらないことが多かったからです。「これやってみようかな」というような機会に巡り合ったとき、「でもな～」から入る思考になると、もったいないと感じました。友達と遊ぶ時間も家の掃除もアルバイトでも、とにかくやってみると十分充実感があると思います。「やらない後悔より、やる後悔！」です。

交流事業の紹介

EXCHANGE PROGRAMMES

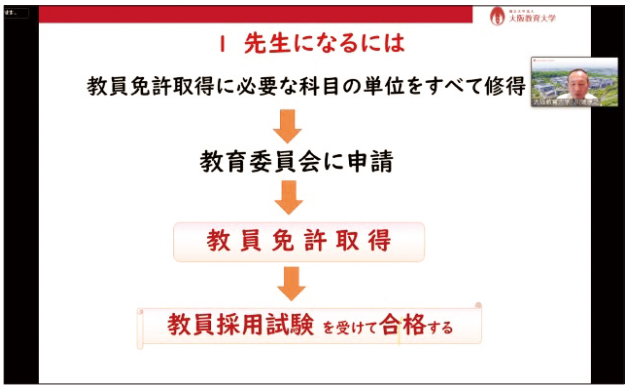
教師をめざす高校生の育成プログラム「教師にまっすぐ」を開講

教師をめざす高校生が、夢を大きく膨らませ、志をより確かなものにするためのプログラム「教師にまっすぐ」の第1回開講式を、オンラインで、7月23日(日)に行いました。これは、大阪府立高校43校で構成する府立高校教職コンソーシアム加盟校と大阪教育大学附属高等学校の1、2年生を対象に実施するもので、8年目となる取組です。受講生約120人は、12月までの全6回にわたり、さまざまなプログラムにチャレンジします。

初めに、開講式では大継章嘉学長補佐が本プログラムの概要について説明を行い、自身の新任教員時代の経験を交え、「教育は、人々に未来を切り開く道を示してくれます。皆さんは、高校生の段階で教育に関わって生きていきたいという強い意志をもって、この講座に臨んでおられると思います。私たちは、皆さんのその意思を大切にし、守り育てていきたいと心から思っています」とメッセージをおくりました。

続いて行った、元府立高校校長の川端康之入試アドバイザーによる講義「先生になるには」では、参加者に質問を投げかけ、チャットに書いてもらったコメントを取りあげながら、教員養成大学で学ぶことの意味や、大学生が学んでいる授業づくり・生徒指導などの紹介、高校時代にしておいてほしいことについて説明しました。

受講生たちは、第2回は7月29日(土)にオンライン、7月30日(日)に対面で行われたオープンキャンパス2023への参加、第3回は8月19日(土)に柏原キャンパスで大阪府立槻の木高校から青竹二郎校長を特別講師に招いて実施した講義を受けました。10月には第4回課題研究と第5回キャンパスガイドへ参加し、第6回は12月23日(土)に修了式を予定しています。



講義の様子

府内高校教員を対象に「教師の学び舎」を開講

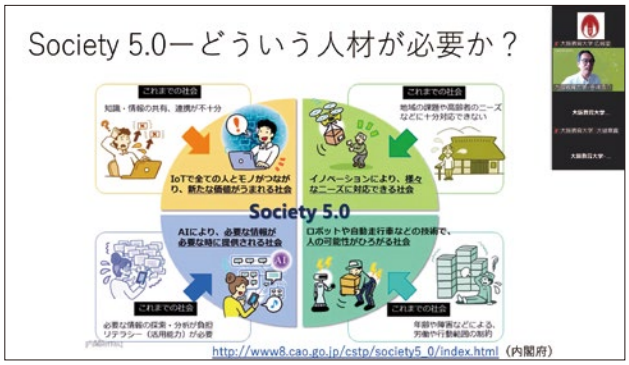
教師の学び舎(第14クール)を、オンラインで開講し、府内の高校教員約30名が受講しました。これは、府立高校教職コンソーシアムの加盟校及び大阪府内の公立高校の教員を対象に、次代の大阪の教育を牽引するリーダーの育成支援を目的に教職大学院レベルの講座を開講するもので、「新学習指導要領の着実な実施のために～ Society5.0時代の教育を見据えて～」をテーマに開講しました。

第1回は6月10日(土)に大学院連合教職実践研究科の寺嶋浩介教授が「ICT を活用したアクティブラーニング」と題し講義を行いました。寺嶋教授は、授業において ICT の活用が求められている背景、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業のあり方、そして、1人1台端末を活用した授業イメージについて網羅的な解説を行いました。

第2回は7月15日(土)に同研究科の庭山和貴准教授が講師となり、「個別最適化に向けた学習の創造と子どもの支援」をテーマに講義を行いました。講義は、「何ができるようになるか?」という学習指導における「目標」を定めたうえで、それを達成するまでのステップを細分化し、学習者がどのステップでつまづいているのかを把握することの大切さなどを説明し、目標の達成を妨げている初期のステップについて、グループワークを活用し情報共有を行いました。

第3回は9月9日(土)に同研究科主任の峯明秀教授が「指導と評価の一体化、観点別評価」をテーマに、評価の目的や必要性、これまでの歴史、そして今年度から高等学校において導入されている「観点別評価」とは何かという、教育現場で現在実施されている評価の基礎となる部分について解説を行いました。

なお、次回の教師の学び舎は、特別講座として、12月～1月に対面でこれまでの講義を受けた振り返りを行う予定です。



講義の様子

交流事業の紹介

EXCHANGE PROGRAMMES

～作文コンクール Leading to the Future2023～

未来に向かって ―教育・夢・感動―

教師をめざす高校生を対象に作文コンクール

大阪教育大学と府立高校教職コンソーシアムは、教職に興味や関心のある府立高校等の1、2年生を対象に、「未来に向かって ―教育・夢・感動―」をテーマとした作文を募集中です。このコンクールは、作文を書くことを通して、生徒が現在と未来の自分について思いを巡らせ、教職への夢や覚悟をより確かなものとすることを目的に実施するもので、8年目の取組です。

高校生たちは、「教育にかかわる現在と未来の自分、高校生・支援学校生としての日常生活での感動」や「これからの時代を見すえて、『こんな学校があったらいい』など、理想の学校園」などを作文として発表します。

〈募集テーマ〉
「未来に向かって　―教育・夢・感動―」
　先生との関わりで感動したこと、学んだこと、そして理想の学校園とは？ を考え記述。

〈実施概要〉

1. 応　　募　令和5年9月15日(金)を締切とし、提出のあった作品を現在、審査中(結果発表は12月予定)
2. 応募資格　府立高校・特別支援学校高等部及び大阪教育大学附属高等学校（以下「高校等」という。）の生徒のうち、教職に興味や関心のある1、2年生
3. 審　　査　校内選考（各高校等）後、大阪教育大学、府立高校教職コンソーシアム、大阪府教育委員会で構成する審査委員会において最終審査
4. 要　　件　400字詰め原稿用紙3枚（1,200字以内）
5. 表　　彰　最優秀賞1作品、優秀賞数作品、佳作数作品
6. 賞　　品　最優秀賞（賞状、トロフィー、図書カード1万円分、大阪教育大学キャラクターグッズ）、優秀賞（賞状、トロフィー、図書カード5千円分、大阪教育大学キャラクターグッズ）佳作（賞状、大阪教育大学キャラクターグッズ）

作文コンクール Leading to the Future2023募集ポスター

加盟校の取組紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

四條畷高校　～勉強も部活動も行事も！ 高校生活を本気で楽しむ！～

四條畷高校は1903（明治36）年に旧制四條畷中学校として創立され、今年で120周年を迎えました。地域では畷高（なわこう）と親しまれ、創立以来の教育方針として『質実剛健』『文武両道』を掲げ、『自主・自律・自由』の精神を育んできました。現在は、大阪府のグローバル・リーダーズ・ハイスクール（GLHS）として13年目を迎え、文部科学省からはスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）Ⅲ期の指定を受けています。

充実した進路指導で希望進路の実現

「文武両道」に打ち込むことで、「確かな学力」や「主体的・協働的に取り組む力」、「質実剛健」な人間力、人の痛みや苦しみに共感できる「豊かな心」を育み、希望する進路の実現を果たしています。進路指導計画『なわて』に基づいた系統的な進路指導により、国公立大学に毎年200名以上が合格しています。生徒達は求めるものが学べる進路を選び、実現させています。

盛りだくさんの行事と活発な部活動

97％以上の生徒が部活動で活躍しています。生徒は高い目標を掲げ真剣に取り組んでおり、近畿大会上位入賞を果たすなど、大きな成果を上げています。また、文化祭や体育祭などの行事は、生徒が中心となって企画・運営をしています。中でも文化祭にあたる「畷高祭」では、3年生全クラスが演じる大劇場など、生徒の熱い思いが一杯詰まった素晴らしいパフォーマンスが見られます。

畷高祭

全校体制で取り組む課題研究
（探究チャレンジⅠ～Ⅲ）

畷高には、GL（グローバルリーダーズ）部という分掌があります。全教職員が課題研究に関わる全校体制で、生徒の「課題発見力」や「表現力」、「発信力」、「英語コミュニケーション能力」などを育成しています。3年間を5つの期間に分けて、課題研究を段階的に繰り返し実施していくスパイラル方式で、様々なインプット活動やアウトプット活動を行い、外部のコンテストや国公立大学の特色入試などで大きな成果を上げています。

課題研究成果発表会

GL10校合同発表会

畷高独自の国際交流活動

畷高は、台湾・オーストラリア・ドイツ・ベトナム・タイの5つの国と交流を行っています。2年生は10月に台湾に修学旅行に行き、現地の高校生や大学生と交流します。12月には、第34期生の服部匡志医師の指導の下、ベトナムの病院で医療ボランティアを体験します。3月には、姉妹校であるオーストラリアのクイーンズランド州バンダバーグ州立高校での授業に参加し、ホームステイを体験します。このように、単なる語学研修ではない主体的・協働的な学びのある海外研修を行い、豊かな国際感覚の育成を図っています。（コロナ禍のため、ここ3年間は、台湾やオーストラリアの姉妹校とオンラインで交流を行ってきました。昨年度3月にオーストラリア研修を4年ぶりに実施し、通常の国際交流活動を再開しました。）

台湾との交流

「畷高の良いところは？」
（ある雑誌の在校生へのインタビュー記事より）

「先生が生徒を思ってくれるところ。私は日本一だと思っています。ひとつ質問すると2時間ぐらい丁寧に教えてくださることもあります。ご自分の仕事や明日の授業の準備などもあるのに、大丈夫かなと思うぐらいです」

「（畷高祭で）みんなが主役というわけにはいかないけれど、折り合いをつけながら協力して、みんなでひとつのものを完成させていくという協調性があるところがすごい！ 学校全体に、みんなで協力して頑張ろうという雰囲気があります」

四條畷高校はこんな高校です。

大教大トピックス

TOPICS

令和５年度入学式を挙行

令和5年度入学式を4月5日（水）、大阪国際会議場グランキューブ大阪で挙行し、夢を抱いた新入生1,112名（学部生939名、大学院生150名、特別専攻科生23名）が、大教大生としての第一歩を踏み出しました。昨年度までは、新型コロナウイルス感染症への対策として、本学キャンパス内の各講義室で専攻・コースごとに挙行していましたが、このたびは実に4年ぶりに、全新入生が一堂に会することができました。

式は、国歌・学園歌斉唱、入学者宣誓、学長式辞、記念演奏の順で行われました。入学者代表の一人として登壇した松本理央さん（初等教育教員養成課程幼児教育専攻）は岡本幾子学長の前に立ち、「大阪教育大学の目的、使命に鑑み、諸規則を守り、学業に励み、人格の陶冶に努めることを誓います」と声高らかに宣誓しました。

岡本学長は式辞で、入学を祝い、「失敗を恐れず、人生の中で二度とめぐってこないこの貴重な時期を、自己実現と自己の確立の為に有効に過ごしていただくように強く期待しています」と激励しました。

記念演奏では、本学公式キャラクター「やまお」と「たまごどり」、本学とフレンドシップ協定を結んでいるＪリーグ『セレッソ大阪』のチームキャラクター「ロビー」と「マダム・ロビーナ」がステージに登場し、大いに盛り上がりました。

新入生たちは、「小学4～6年生のときの担任に憧れて教員を志望しました。児童から信頼される先生になりたいです」、「みんなに愛される先生になりたいです」など将来の夢について話し、新生活への期待に胸を膨らませていました。

式辞を述べる岡本学長

記念演奏の様子

宣誓書を手渡す入学者代表

入学式後の新入生たち

春の学園祭「五月祭」を開催

春の学園祭「第73回 五月祭」を、5月13日（土）と14日（日）に開催しました。

今回の五月祭は「先輩たちが必死に復活させてくれた大学祭をこの勢いを止めてしまうことはできない、むしろ加速させていかねばならない」という意味を込めて、Accelerate（加速する）」をテーマに掲げ催しました。

当日は全19ブースの出店があり、新入生が主体となり、ベビーカステラ、たこ焼き、わたあめ等の飲食店や、お菓子釣り・ひもくじ・ストラックアウト・射的等の屋台を催し、出店の他には、クラブ・サークル等の課外活動団体による各企画が講義室で行われ、ステージではパフォーマンス系の団体によるバンド演奏・アカペラ・演舞等で会場を盛り上げました。

五月祭を企画・運営した大学祭準備会（通称：大学祭実行委員会）の委員長である山田華凛さん（教育協働学科理数情報専攻3回生）は、「新入生による飲食を含めたテント出店やサークル団体によるブース、バンドやダンスなどのパフォーマンス団体によるステージ企画など、以前とほとんど遜色ない大学祭を実施することが叶いました。また、入場制限を撤廃したため、外部からの来場者様も増え、幅広い世代の方々にご来場していただくこともできました。今まで制限があり、なかなか思うようにいかなかった大学祭や課外活動ですが、今回の五月祭を皮切りに様々な活動が復活、そして盛り上がりが加速していくことを心から祈っています」と振り返りました。

ステージ企画ライブの様子

大阪教育大学公式キャラクター「やまお」との記念撮影会

取組団体による屋台での集合撮影

編集後記

いよいよ「教師にまっすぐ」も後半！これからは、夢に向かって頑張る高校生と同じ夢を持ち、そんな高校生を応援する大学生との交流の機会が増えます。

高校生、大学生と立場が違ってもお互い励まし合う姿には、心が打たれます。

修了式に向かって「頑張れ！」とみんなで応援しましょう。

追伸　大阪教育大学では、令和6年度に教員養成課程の改組を行います。「EVOLUTiON2024」をキャッチコピーに、先導的・革新的なカリキュラムの展開、時代と社会の変化に適応した専攻・コースの新設、そして複数免許を取得しやすいカリキュラムの整備など、より持続可能な社会の創り手として「令和の日本型学校教育」を担う教員を養成していきます。詳しくは右記の QR コードをご覧ください。（H.K.）

令和6年度 教員養成課程の改組についてはコチラをご覧ください。

府立高校教職コンソーシアムは、すぐれた資質を備えた次代を担う魅力ある「教員」を育てるために、本学をはじめとする教育系大学と連携し、「教員になること」を具体的にイメージできる機会を与えることを目的として、大阪府内の32府立高等学校間で平成26年末に結成されました。現在は43校が加盟しています。

大阪教育大学 → 教員・学生 → 連携交流事業 ← 生徒・教員 ← 府立高校教職コンソーシアム

Win-Winの成果をめざして

大学のメリット

熱意ある学生を獲得

教職に対して熱意ある優秀な学生を確保し、優秀な教員を輩出する。

教職大学院生の募集

教師塾などを通じて、現職教員に本学教職大学院の魅力を伝え、院生の募集につなげる。

高校のメリット

大学を知る機会を提供

生徒に教育系大学での学習や生活について知る機会を提供する。

学校教員の教育力向上

若手教員に学びの場（教師塾）を提供し、教育力向上をはかる。

大阪教育大学のSNSアカウント

公式X（旧Twitter）
https://twitter.com/OsakaKyoikuUniv

公式Facebook
https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv

公式YouTube
https://www.youtube.com/user/OKUChannel

公式Instagram
https://www.instagram.com/osakakyoikuuniv

イベント情報やニュースなど、大教大の「今」を発信しています。ぜひフォローしてください。